

# 麦類技術情報No. 4

平成29年3月31日

麦類栽培者 各位

JA 営農支援課  
大潟村麦類生産班

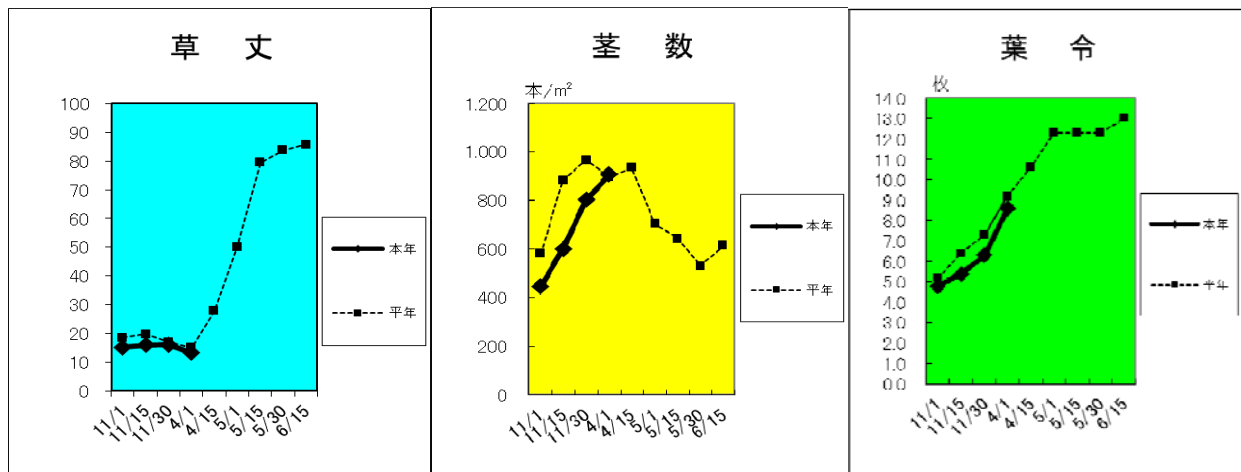
## 麦類の生育状況と今後の管理について

平成29年産麦類は、例年よりも早い雪解けにより越冬前の生育量不足から回復傾向となっておりますが、平年をやや下回る生育状況となっております。また、現在の生育状況から幼穂形成期を間もなく迎えるものと思われます。また、圃場によっては、雑草(スズメノテッポウ)が繁茂している圃場が見受けられますので、下記を参考に今後の管理に万全を期してください。

### 1. 3月30日現在の生育状況

	品種名	草丈 (cm)		茎数 (本/m <sup>2</sup> )		葉令 (葉)		幼穂 (mm)		SPAD	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
小	銀河のちから	13.3	15.1	908	897	8.6	9.2	0.8	2.4	50.0	50.7
	平年比	88.0%		101.2%		-0.6		-1.6		98.6%	
麦	ネバリゴシ	15.0	14.0	1,302	1,108	9.2	9.2	0.5	1.1	41.9	42.6
	平年比	107.1%		117.5%		+-0		-0.6		98.3%	

### 2. 銀河のちからの生育相の推移



裏面に続く

### 3. 今後の肥培管理

現在幼穂形成期(2mm 期～)を迎えているほ場もありますので、N成分 2～3 kg/10a (硫酸現物で10kg～15kg)を目安に追肥を行ってください。

「銀河のちから」は葉色が濃い品種になっておりますので、SPAD値55以上であれば追肥を控え、ネバリゴシの葉色はSPAD値45以上の場合は追肥を控えるようにしてください。

### 4. 雑草対策について

現在「スズメノテッポウ」を中心に各圃場とも雑草が発生しております。

天候を見計らい、まだ散布を実施されていない方は、各自圃場を確認のうえ、10a 当たり『ハーモニー75DF 水和剤』10gを水 100L(10,000 倍)に溶かして散布してください。

※スズメノテッポウについては5葉期まで。

スズメノカタビラには効果はありません。

麦の草丈が伸びると雑草へ薬剤が付着しないため、十分な殺草効果が得られません。

※スズメノテッポウの葉は柔らかく薄いのに対し、スズメノカタビラの葉はスズメノテッポウよりはやや堅く、やや厚みがある。

### 5. 今後の病虫害防除について

#### うどん粉病

うどん粉病を初期から蔓延させると防除困難になると同時に、下葉の枯れ上がりが早まり、減収、品質の低下の原因となります。

特に茎数過剰や極端に葉色の濃い圃場においては注意が必要です。発生が確認された場合は『アミスター20フロアブル』を2,000倍液で100ℓ/10a 散布してください。